

健康WGにおける論点例

○ライフコースを念頭に置いた健康支援や相談体制等の整備

- ・健康支援について、各年代や男女でどのようなニーズや必要性があるか。
- ・どのような体制で健康支援をおこなっていきべきか。
- ・女性の生涯を通じた健康づくりについて、普及啓発をどのように進めるべきか。
(例: 妊娠・出産期に関する情報の提供、健康支援、健康教育)
- ・個人の行動を基軸とした健康に向けた取組をどのように進めるべきか。
(例: 個人の行動指針の作成)
- ・相談体制の整備をどのように進めるべきか。

○性差医療の推進

- ・性差医療を本格的に推進するためには、何が必要か。
(例: 女性特有のがん検診の推進)
- ・国民、医療関係者に対する知識の普及をいかに図っていきべきか。



○安心・安全な妊娠・出産の実現

- ・安心、安全な出産等に関する環境整備をどのように進めるべきか。

（例：周産期医療や緊急医療体制の充実、産科医をはじめとする医師不足への対応、
医師のワーク・ライフ・バランス確保）

- ・医療機関の連携体制の充実をいかに図るか。

- ・妊娠、出産などのライフイベントに対する男女双方の理解の促進を効果的に行う方法
について

（例：高齢出産に一定の危険が伴うことや、20歳未満の人工妊娠中絶件数が増加していることなど妊娠・出産に関する情報の提供、健康支援、健康教育）

○適切な性教育の推進

- ・性と生殖に関して健康であることの重要性をいかに浸透させていくか。

○健康をおびやかす問題についての対策の推進

- ・HIVや薬物等に関する教育啓発をいかに進めるべきか。

（例：学校に通っていない未成年への防止教育等）



■各WG共通論点

○風土の改革・気運の醸成、あらゆる年代層への広報・意識啓発と実践的取組

- ・若年層では男女で男女共同参画意識の傾向に差がみられるという現状もあるが、若年層への効果的なアプローチについて
- ・男女共同参画の問題について、メディアや幅広い主体との効果的な協働や、コミュニケーションの充実をどのように図っていくか
- ・これまで男女共同参画に関心が薄かった層にも分かりやすくメッセージを伝える方策について
- ・メディアが男女共同参画意識に与える影響について
- ・男女のための新しい社会変革という男女共同参画社会実現の意味を誤解なく伝え、新たな流れを作っていくための方策について

○国と地方の推進体制の整備充実・地方公共団体、企業、大学、NPO、地縁団体、男女共同参画センター等との連携強化

- ・地方公共団体における推進体制の充実や関連施策の着実な推進をいかに進めていくべきか
- ・国と地方公共団体（特に市町村）との連携を進めるためにはどのような仕組みが有効か
- ・企業や政党といった多様な主体が、自ら男女共同参画に主体的に参画する仕組みをいかに進めるか
- ・NPO、地縁団体等が活躍できるような基盤をどのように作っていくか
- ・世代や地域や分野を超えてネットワークを形成し、連携協力していく方策について
- ・女性のライフコースに沿ったエンパワーメントに当たっての男女共同参画センター等の役割について